

百年の時効

著者名： 伏尾 美紀
出版社： 幻冬舎

本の雑誌が選ぶ2025年度 ベスト10 1位
1974年に起きた一家惨殺事件。未解決のまま50年——。アパートで見つかった、一体の死体によって事件の針は再び動き出す。
嵐の夜、夫婦とその娘が殺された。現場には四人の実行犯がいたとされるが、捕まったのは、たった一人。策略、テロ、宗教問題……警察は犯人グループを追いつめながらも、罨や時代的な要因に阻まれて、決定的な証拠を掴み切れずにいた。50年後、この事件の容疑者の一人が、変死体で発見される。現場に臨場した藤森菜摘は、半世紀にも及び捜査資料を託されることに。上層部から許された捜査期間は一年。真相解明に足りない最後のピースとは何か？ 刑事たちの矜持を賭けた、最終捜査の行方は――

殺し屋の営業術

著者名： 野宮 有
出版社： 講談社

第71回江戸川乱歩賞受賞作
営業成績第1位、契約成立のためには手段を選ばない、凄腕営業マン・鳥井。アポイント先で刺殺体を発見し、自身も背後から襲われ意識を失ってしまふ。
鳥井を襲ったのは、「ビジネス」として家主の殺害を請け負っていた「殺し屋」だった。目撃者となってしまった鳥井は、口封じとして消されそうになる。
絶体絶命の状況の中で、鳥井は殺し屋相手に「ここで私を殺したら、あなたは必ず後悔します」と語り出す。

「今月のノルマはいくらでしょう？ 売上目標は？」

「契約率は25%……、残念ながら、かなり低いと言わざるを得ません」「どうしてこんな状況になるまでプロの営業を雇わなかったんですか？」

カフェーの帰り道

著者名： 嶋津 輝
出版社： 東京創元社

第174回直木賞受賞作
東京・上野の片隅にある、あまり流行（はや）っていない「カフェー西行」。食堂や喫茶も兼ねた近隣住民の憩いの場には、客をもてなす個性豊かな女給がいた。竹久夢二風の化粧で注目を集めるタイ子、小説修業が上手いかず焦るセイ、嘘つきだが面倒見のいい美登里を、大胆な嘘で驚かせる年上の新米・園子。彼女たちは「西行」で朗らかに働き、それぞれの道を見つけて去って行ったが……。大正から昭和にかけ、女給として働いた“百年前のわたしたちの物語”

知性の復権 「真の保守」を問う

著者名： 先崎 彰容
出版社： 新潮社

トランプ2. 0を機に世界秩序は急激に変わりつつある。協調から対立、自国のアイデンティティ再構築を目指す動きはロシアや中国も同様で、こうした歴史の変曲点は百年前、第一次大戦後の戦間期にも酷似する。戦後八十年のいま、政治家や政党はこぞ「保守」を掲げるが、社会の閉塞感は強まるばかりだ。混迷と不確実性の時代をこの国はどう乗り越えるのか——近代思想史を掘り下げ、令和日本への処方箋を示す。

熟柿

著者名： 佐藤 正午
出版社： KADOKAWA

第20回中央公論文芸賞 受賞
本の雑誌が選ぶ2025年度上半期 ベスト10 1位

激しい雨の降る夜、眠る夫を乗せた車で老婆を撥ねたかおりは轢き逃げの罪に問われ、服役中に息子・拓を出産する。出所後息子に会いたいがあまり園児連れ去り事件を起こした彼女は、息子との接見を禁じられ、追われるように西へ西へと各地を流れてゆく。自らの罪を隠して生きる彼女にやがて、過去にまつわるある秘密が明かされる。

HACK

著者名： 橘玲
出版社： 幻冬舎

2024年、秋。

暗号資産で得た利益への課税を逃れ、バンコクで暮らすハッカーの樹生(たつき、30歳)は、大麻ショップの屋上で日本人の情報屋・沈没男(ちんぼつおとこ)から相談を受ける。彼は、特殊詐欺で稼いだ違法資金を、ビットコインを使ってマネーロンダリングしたい、というのだ。

頭脳明晰だが退屈な日々を送る樹生は、その話に乗ることにした。彼にとってはハッキングもマネロンもクリプト(暗号資産)もすべて「ゲーム」だった。

そんな樹生は、五年前のスキャンダルで失踪した元アイドル咲桜(さら)がバンコクにいることを知り、そして彼女から連絡を受けたことがきっかけで、国際的な「陰謀世界」へと迷い込んでいく――。

豊臣兄弟 天下を獲った処世術

著者名： 磯田 道史
出版社： 文藝春秋

大河ドラマより面白い!! 令和の太閤記

「豊臣ブラザーズ」の人生は学びが多い。(中略) 豊臣ブラザーズは永続して貴族になったファミリーの生まれではありませんでした。であるにもかかわらず、彼らは巧みに天下を獲りました。この国にあって、どのような生き方をすれば、いかなる性格を持ってすれば、このような出世の階段を駆け上がることが可能なのか。歴史家としては、この謎を解き明かして、世間の目にさらしたい衝動に駆られます。

名探偵コナン 隻眼の残像

著者名： 青山 剛昌
出版社： 小学館

小五郎に警視庁時代の同僚だった「ワニ」から電話が入る。コナンたちが一緒に事件を解決したことがある長野県警の大和敢助刑事が巻き込まれた事故について聞きたいという。10か月前、ある事件の関係者を追っていた敢助が雪崩に飲み込まれたのだ。奇跡的に生還したものの、左眼を負傷し隻眼となっていた。その後敢助は、侵入事件の事情聴取に訪れた天文台の巨大パラボアンテナで負傷した目がうずき出し……。一方、ワニとの待ち合せ場所に向かった小五郎とコナンたちは、響き渡る銃声に走り出すか?!